

## ◆分散型TEKU-TEKUその8★外濠の景観と再開発を歩く（活動記録）◆

企画■外濠の歴史景観と再開発を歩く（牛込見附～市谷見附～四谷見附）

日時■企画説明 2021年11月23日（祝）20:00～22:00（オンラインにて開催）

歩く期間 2021年11月24日（水）～12月31日（金）（この間に各自で歩く）

※2021年12月18日（土）13:30～16:00 集合型まち歩きを復活試行（参加8名）

標準コース■飯田橋駅西口/史跡展望テラス～飯田橋グランブルーム～法政大学市ヶ谷キャンパス～外濠土手上～市谷見附橋～旧四谷コーポラス建替～コモレ四谷再開発～四谷見附橋～聖イグナチオ教会

評価対象■①飯田橋グランブルーム(2014再開発竣工) ②法政大学市ヶ谷キャンパス(2019年再整備完了)

③コモレ四谷(2020年再開発竣工) ④江戸城外濠の歴史・自然景観

評価提出■井手幸人、上野朋子\*、◎大竹 亮\*、梶川義実、栗原 徹\*、鈴木丞治\*、竹下香里\*、原 久子、藤井幹也、古里 実\*、松野栄明\*、森 正代\*（以上12名、\*集合型まち歩き参加、◎コーディネイター）

企画主旨■自然地形を活かして造られた江戸城外濠の水と緑は、都心の貴重な景観資源・オアシス空間となっています。かつては再開発で濠を埋め立てることもありましたが、今では史跡として大切に保存活用されています。そして、水と緑の空間を活かし、それに調和した都市整備が目指されるようになりました。今回は、最近竣工した飯田橋駅西口+グランブルーム、法政大学市ヶ谷キャンパス、コモレ四谷複合再開発を中心に外濠に沿って巡り、歴史景観と都市開発の新しい関係を考えてみましょう。

1◆飯田橋グランブルーム（歩行者広場、教会、商業テラス、提供歩道等）評価:3.00 内訳:AAAABBBBCCCC

評価A●飯田橋駅の左手正面に見え、広く受け入れてくれる姿勢を感じられる。教会と広場があり欧州に多くある小都市の広場の感じがする。時々、イベントがあると良い。

評価A●狭かった飯田橋駅前に歩行者広場が出来て、法政大学方面への歩道も広がった。従前の教会を独立棟にしたもの面白い。飯田橋駅2Fの史跡展望テラスから見ると、高層棟は外濠景観とマッチしているように思う。

評価A●牛込見付や牛込橋の遺構、外濠が一望できる稀有な場所、遠景のビル群ともマッチしている。

評価A●春には桜並木の美しい通りに、大手デベロッパによる再開発で楽しい空間になっていると思います。

評価B●外濠沿いの歩道の設えがいい。2階の店舗は家族連、カップルに活用されていた。

評価B●お濠側のテラスは気持ちが良い。教会周りの公開空地は、再開発本体と共有管理区分されているのは良いのだが、空間としては一体のデザインをすれば良かったのにと感じた。

評価B●教会と一体の広場は解放感があり提供歩道も良い。壁面などに石を使い、お濠を意識した素材にしている。

評価B●同じ施設内で教会だけを独立の建物になっていて効率が悪そうだが、何らかのメリットがあったのか？オフィス部分はエントランスやエレベータホールも広々して落ち着いていて良い。駅側の広場から2Fの商業施設の存在が判り難く、もう少し目立つ工夫が有ると良い。

評価C●駅前広場と富士見町教会との一体感が乏しいのが残念。日本のプロテスタントを象徴している気がしないでもない。土手沿いの歩道は、気持ちの良い散歩道。外濠を挟んだビル群と相まって夜景も良さそう。

評価C●一体と見える敷地となっているにも関わらず、教会から外部へのしみだしが感じられなかったのが残念。

評価C●駅前再開発としては何処にでもありそうで特に面白みは感じませんでした。教会がこのエリアに特徴的な施設なので、もう少し景観として独創的な売りにできなかつたかと思えます。

評価C●駅側に広場を確保しているのは良いが、教会が広場やオフィスなどと調和していないので唐突な印象を受ける。これだけ大規模な再開発なので、もっと地域に貢献する施設があっても良いと思う。



飯田橋駅史跡展望テラスから見るグランブルーム



飯田橋グランブルーム/広場、商業施設と歩道

## 2◆法政大学市ヶ谷キャンパス（富士見ゲートと中庭、タワー校舎等） 評価●2.83 内訳●AABBBBBBBCCC

評価A●ゲートのある校舎は圧迫感がなく、1階の抜けによって広がりを感じられて良かった。中庭には入れなかったが、内部からは外堀の緑が視野に入って良い感じなのだろうと想像された。各校舎の建物に変化がある。

評価A●都心の大学として、各棟を通りに面して建て（1Fに店舗も）、中庭を囲む構成が非常にいい。

評価B●校門外よりの見学のみでしたが、スクエアを組み合わせたデザインが構築的で印象的でした。

評価B●都市の大学は郊外に出るかこうなるしかないか。ゲートの周囲はクリーンで落ち着いた雰囲気。広場の奥に見える大内山校舎の東端部分の造形がモダン。

評価B●正面玄関の富士見ゲート校舎のピロティは重厚感がある。キャンパス内には入れず残念。

評価B●キャンパス沿いの歩道を歩いても威圧感を感じないような設えになっている。

評価B●都心の大学という感じがして、かっこよかったです。

評価B●高層キャンパスが歩道のすぐそばに聳え立ち、圧迫感と威圧感が最大でそばを通るのが怖いほどだった。中庭に通じる幅広の階段はそれなり。

評価B●敷地の外周に建物を配置した中庭型の空間構成は都市型の大学としてはとても良いと思うが、コロナのためか富士見ゲートが閉められており、大学が街に開かれていなかったのが残念。

評価C●キャンパス中が見えなかったので何とも言えませんが、建築としては随分凝っているのでしょうか。

評価C●都内のキャンパスとしては余裕がありそうだが、もう少し街に馴染むようにはならなかったのかと思う。ゲートはちょっと権威主義的な雰囲気。左翼の立看板が皆無だったのにはびっくりした。

評価C●守衛が多く、立ち入りを拒む雰囲気が強かった。中庭に入れば、また違った感想を持ったであろう。富士見ゲートを使わないのはもったいないと思うが。（注：コロナ禍による入門規制中）



法政大学キャンパス／外濠土手側の富士見ゲート



法政大学キャンパス／超高層棟ポアソナードタワー

## 3◆コモレ四谷再開発（低層商業ゾーン、こもれび広場、自由通路等） 評価:3.50 内訳●AAAABBBBBBBC

評価A●駅を出てコモレ四谷方面を見るとパッと視界が開けた感じがしました。この開発で外堀通りから一步入ったところに設けられた「こもれびの広場」は、静かで都市の喧騒を忘れる広場でした。

評価A●BIMを使った設計が生きている一例、こもれび広場から通じる曲がった小道が自然とビルに溶けこむ様子など、よくシミュレーションがなされた結果生まれたデザインである。

評価A●敷地の高低差が建物の中にも反映されていて面白い。パサージュを抜けた先に、こもれび広場も良かった。ウォークには江戸期の町割りや昭和初期までの歴史が展示されていて、これも良かった。

評価A●近隣地域との調和も取られている空間構成で、パサージュやこもれびの広場も周辺地域からの人流を引き込むような、引き込まれるような作りだと思いました。

評価B●非常にユニークで面白いと思いました。特に低層棟の路地的雰囲気と外壁の曲線と色使い、緩やかな丘陵を思わせる広場の景観が素晴らしいと感じました。ただ商業エリアのテナントが少し物足りなかったですね。

評価B●駅側の超高層オフィス、住宅地側のこもれび広場、低層部の商業ゾーン（複雑！）の構成がいい。

評価B●落ち着いた色使いと曲線が印象的。真っ直ぐでないビル内のパサージュが良い雰囲気、広場とのつながりも自然。食事時間を外れているにもかかわらず、住民の憩いの場所になっていたように思う。

評価B●低層棟の上部にも住宅が入っていることに驚いた。再開発の足元の緑化だけでなく、建物の緑化にも頑張っているのは好感が持てる。分棟を繋ぐ自由通路の整備に再開発設計の苦心がうかがえる。低層商業ゾーンへの入店構成が地方の再開発と同様となっていて少し心配になった。

評価B●路地のように通り抜けのできる自由空間、緑化などとても良かったが、入っているテナントによって雰囲気が変わる。高級ショップが入れば丸の内的にもなるし、洒落た店が入ればパリの空間にもなるし、テナント（ソフト）と通りのコンセプトが感じられずちょっともったいない。

評価B●北側の広場と緑化されている階段状の低層部はとても良いと思うが、商業空間については動線が複雑すぎてわかりにくい。

評価B●低層商業ゾーンや住宅部分と高層棟は別物で一体感が無いが？ コモレビ広場は近隣含めた住人の憩いの場所として活用されていてとても良い。

評価C●広々とした緑豊かな空間を提供していることはよいと思いました。一方、再開発事業の難しさを感じる施設配置は残念でした。



コモレ四谷／駅前側ファサードとオフィス棟



コモレ四谷／住宅地側の商業棟とこもれび広場

#### 4◆外濠の歴史自然景観（水面と緑地、土手の並木道、電車とビル群等） 評価:4.17 内訳●AAAAAABBBBB

評価A●総武線電車、水辺空間そして中遠景のビル群からなる風景を眺めるのは久々だったが、子供の頃の思い出を呼び起こす懐かしさがあった。神田川から外濠までの水辺空間は、東京を代表する風景だと再認識。

評価A●明治時代の甲武鉄道市街線（現中央線）の敷設の際にも景観競争があり、市区改正の中で外濠とその樹木を守る計画とした先人の取組が、今も引き継がれている点が素晴らしいと思う。

評価A●土手の並木道は、ジョギングする人、家族で散歩する人を見ました。水面を見ながら心地よい風を感じ歩ける並木道は贅沢です。近くにあったら朝夕散歩したいです。

評価A●気持ちのよい空間です。今後もそのまま残して欲しいです。

評価A●冬に訪れたい東京の風景の一つ、特に夕暮れの太陽とビル群の影が水面に映る様子は郷愁を誘う。

評価A●当たり前のように昔からあるが、都心部にこうしたダイナミックな水と緑の景観が残るのは貴重なこと。

評価A●東京を象徴する景観と思う。土手の並木道も歩きやすい。惜しむらくは水が汚いこと。何とかしたいもの。

評価B●飯田橋駅の変遷や外濠の歴史など、お話を聞きながら昔に思いをはせて歩くと、こんなに面白いものかと思いました。

評価B●1990年に四谷駅舎は建替えられ、最初のアトレと併設されたので、1975年前後6年間通学していた頃の駅舎の面影はないのは大変残念なことですが、この場所そのものには郷愁を感じるどころです。大変便利になっている一方、駅前ロータリー等の景観の趣の良かったことを思い出します。

評価B●飯田橋駅に周辺の歴史が記されたボードを掲示していて判り易かった。水のある景観は誰もが好き。濠があることで遠方まで見渡せる事も。水がもう少し綺麗になれば。

評価B●都内で電車の横に外濠の水面という独特な景観を作り出している。

評価B●都心部では貴重な水と緑と歴史の空間であり非常に素晴らしいが、街としてその素晴らしい空間が十分に活かされているとは思えない。



江戸城外濠のダイナミックな歴史・自然景観(新見附)



外濠土手上に続く散歩道(法政大学付近)

## 5◆今回歩いた中で（上記以外）、最も印象深かった場所とその理由

飯田橋駅史跡展望テラス★駅の変遷や外濠の石垣の一角が残されている点など、歴史を知ると面白かったです。

飯田橋駅史跡展望テラス★駅舎の2階部分をテラスとカフェにしており、外濠の景観を楽しめる心地よい空間。

飯田橋駅史跡展望テラス★飽きない景色。ゆっくりしたい。

飯田橋駅史跡展望テラス★牛込御門跡や外濠を真上から見ることができる。この付近のみ架線柱やビームもこげ茶に塗色されているのも好ましい。

飯田橋駅西口★旧駅舎と長い斜路も味があったが、改良で旧牛込駅が復活したのが面白い。東口再整備にも期待。

グランブルーム脇の外濠に沿った店2軒★デザイン次第で小粋なお店になる。周辺には樹木より低い建物は少なくかつ、ポリウム感がなくほっとする、ぜひ残してほしい。

外濠ポートハウス★外濠の景観要素としても心地よいカフェとしても一押し場所。

法政大学前のトイレ★大正モダニズムを感じさせ、かつヒューマンなデザイン。

土手の並木道★以前、通学した場所のため。

アンスティチュ・フランセ（旧東京日仏学院）★近代建築の保存+新たな空間の創出。

東京理科大学近代科学資料館★東京物理学校の木造校舎の復元。

旧四谷コーポラス★周囲にも調和した優等生的な建て替えたが、当時先進的だった計画理念が失われたのは残念。

四ツ谷駅★JR線の上を地下鉄が通り、四谷見附橋と駅を結ぶブリッジやその脇の未利用空間など、今まであまり意識していなかったがなかなか興味深い。

四ツ谷駅★旧外濠でトンネルから出た中央線・総武線・丸の内線が複雑に交差し、まるで遠藤章子の絵画のようだ。

四谷駅周辺★あの上下左右に入り組んだ複雑な構造は、いったいどういう経緯で造られたのか？ それとも仕方なくあんなったのか？ 興味があります。

四谷駅前ロータリー★時代の変化とともに都市風景が変容していく様を実感。

四谷見附橋★高欄や橋灯は旧橋のもの（ネオバロック様式）が再利用されている点が良い。

四谷見附橋★旧橋の添架物を再利用した掛け替え。

聖イグナチオ教会★開かれた外部、厳かな内部とも人を迎え入れる気持ちが感じられました。

聖イグナチオ教会★不思議な鐘楼。富士見町教会との比較。

聖イグナチオ教会★祈りの場に相応しい天井デザインが印象的。

聖イグナチオ教会★教会ホール内部のコンクリート打ち放し面に縦のステンドグラスがリズム良く入り天井のリップのデザインもきれいで、心休まる内部空間になっている。

聖イグナチオ教会★列柱に囲まれた中庭や花びらのような天井の主聖堂など、とても良くできている。

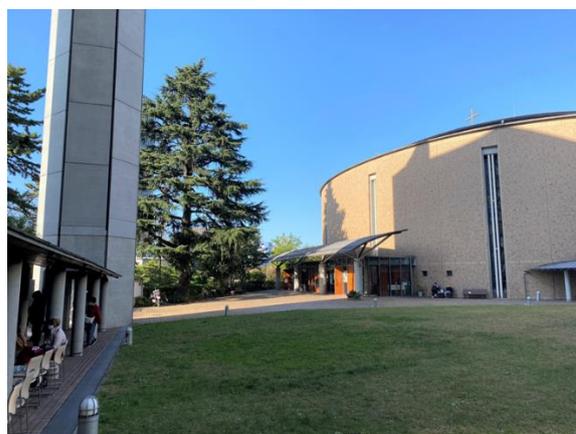
聖イグナチオ教会★かつての姿とは大きく変わっていて残念。前庭が狭く、四ツ谷駅側が正面でないのも残念。

聖イグナチオ教会★板倉建築研究所の最高傑作と思う。クリスマスが間近な冬の夕日が差し込む大聖堂には神々しい雰囲気が立ち込めていた。

聖イグナチオ教会★初めて入ったのですが、本当に美しい！！感動しました。あの鐘楼の謎、何とか解きたいですね。どうやって上るのか・・・？



橋灯と高欄が保存転用された四谷見附橋



尖塔と中庭回廊のある聖イグナチオ教会

## 6◆今回のような比較的大きな敷地に複数建物や用途が複合する場合の再開発・再整備について、どのような計画にすれば、街をより良くより魅力的できるか？

- 大規模再開発は周辺に大きなインパクトを与えることから、周辺との調和を図るとともにインパクトを活かした周辺市街地の再生を目指すべきであり、必要となる機能や空間を再開発地区内に導入すべき。そのためには地域の状況や課題を読み解くとともに、地域住民や行政と十分な時間をかけて協議することが必要だと思う。

- 変化を作ること、高さや面としての壁のような圧迫感のないものとする。経済効率から、また開発の意図から逆行すると思うが、ボリューム感をなるべく減らす。
- 規模が大きくなる権利が複雑になるので、更新がしやすいように分有型再開発としつつ、逆に足元のオープンスペースは大きくとれるので、一体利用できるデザインと維持管理の仕組みが大切だと思う。
- 容積を活用して縦に伸びる分、地平面を街と一体化するような配置とし、敷地境界を意識しない計画が良い。コモレ四谷、飯田橋グランブルームはそのような思想を強く感じた。
- 周囲の街区と一体性を持たせ、自然なつながりを作ることが重要だと思う。持続的な集客にもつながるはず。
- 周辺の町並みへの配慮、歩行空間への圧迫感の考慮ではないでしょうか。
- 四角くて効率性一辺倒の開発ではなく、遊びと意外性と曲線のあるデザイン。
- それぞれに環境が違うので一般解は無いが、コモレ四谷のようにデジタル化による精密なシミュレーションを重ねることにより最適解に近づくとと思う。
- 単なる敷地内の収益性の追求だけでなく、事業によって街全体が良くなることを目指すべき。そのためには、敷地の持つ「潜在的公共性」を事業の契機に顕在化させることが求められる。この仕組みと技術を確立すべき。
- べたな言い方ですが、「街の魅力が価値になる」ということを関係者が皆で共有し、ものごとを決める際に、都度確認することだと思います。



コモレ四谷／教育スポーツ施設棟とせせらぎ舗道



法政大学キャンパス／建物群に囲まれた中庭広場

## 7◆外濠が現代の東京に持つ役割を踏まえ、外濠を活かしたまちづくりの方法について

- 外濠は水と緑が連続した都心部では貴重な自然的・歴史的空間だが、外濠とその周辺はほとんどが公共空間であり、飯田橋のカナルカフェ以外には魅力的な施設がない。もっと水面や景観を活かしたカフェやレストランなど、多くの人々が快適に過ごせる施設を増やした方が良いと思う。
- 水辺空間を体現できる貴重な空間。水辺での様々遊びや定期的な水上ライブなどができるといいですね。
- 四季折々の樹木の表情や水鳥も遊ぶ水辺空間は、心をいやす空間だと思う。市ヶ谷の釣り堀や飯田橋カナルカフェのような使い方もよいと思う。
- 「街の魅力の源」だと思います。皆で掃除をする、植栽の手入れをする等、近隣住民や興味を持つものが関わる機会を増やすといいと思います。
- 東京が持つ歴史的な重層性が感じられる場所です。また、外濠を見ることで皇居との空間的なつながりも感じられる。歴史的かつ空間的に自分の位置が明確になることにより心理的な安定が得られる気がするので、その点を刺激するような仕掛けをすれば、より魅力的になるのでは。
- 江戸時代からの歴史を今に伝える東京の貴重な都市空間資源だと思う。パリのセーヌ川のように水辺の利用を進めてはどうだろうか。また、鉄道から見える修景整備と鉄道と外濠を観る場所の整備を共に進めてほしい。
- 東京オリンピックの際に、よく日本橋の二の舞にならなかったと思う。今後もこの景観を保全できるよう知恵を出す必要がある。
- 緑と歴史が残されたまちの重要なエッセンス。飯田橋の駅にパネル展示など思いを感じた。普段外濠を意識している人は少ないと思うので、外濠コンシャス協議会のようなものをつくる。関係者と合同で 外堀が遊歩道として分断されずに続くように設計しまち全体として魅力的なものとする。外濠マラソンやラリーなどイベントも。飯田橋駅横の牛込橋の水の景観をよくする。今のままではもったいない。堀の内部と外部が分断されつながりがない（濠の機能だからかもしれないが）丸の内も同様だが、濠の淵は幅の広い道路が原因では、例えば歩道の幅と車の幅を逆転したら違ってくるのではないだろうか。
- 川にせよ池にせよ濠にせよ、水のある街は素敵です。東京はその意味で恵まれているけど、如何せん上手くそれが利用できているエリアはまだ少ないと思います。水の周りはすべて緑で囲むというのはどうでしょう？

- 都心部に貴重な素晴らしい歴史自然景観が残っているが、過去には濠を埋めた再開発もあり（飯田橋セントラルプラザ）、有効利用されているとは言い難い。行政はすべての区間を連続して歩けるようにし、民間も建物には濠に面するテラスを設けることなどから始めたらどうだろうか。
- 外濠が残っている事＝地域に水辺の景観がある事。内濠も含めこの地域では貴重な水辺。贅沢を言えば濠の本来の機能とは真逆であるが親水的な部分があればと思った。濠があることで都市景観に距離感（抜ける視界、遠くに見えるビル群など）が生まれそれが大きな魅力。
- お濠は、現代の都市では大規模な水と緑の空間を提供し、人々にとって身近な憩いの場となり、生物生息の場となっている。また、ヒートアイランド現象緩和の一助ともなりうる。歴史的にも価値ある外濠の水と緑を生かした空間が、新しい時代の空間と歴史的な空間を結び、調和のとれた空間となれば魅力的ではないかと思えます。



新しい飯田橋駅西口駅舎と史跡展望テラス(2階)



外濠土手上から見る水面と緑地と電車とビル群

## 8 ■今回の企画全般についての感想など

- 学生時代からよく見ている飯田橋、市谷、四谷の風景を外濠という視点で考えたことがなかったので、良い機会になりました。(H/H)
- 甲武鉄道はギリギリのところをよく通したと改めて感心した。丸の内線四ツ谷駅ホームから見えるレンガ造のトンネルは1894年に開通。四ツ谷、飯田橋と駅とともに周辺が大きく変わっていることは、電車に乗っているだけではわからなかった。御茶ノ水駅周辺も淡路町が再開発されたように都市更新の時期であると感じた。(K/Y)
- 今回の事例を見て改めて東京のキャパシティの大きさを改めて認識。渋谷駅、新宿駅などの大きな街だけでなく、飯田橋、四谷等の比較的小さな地域でも大きな開発が成立しているが、地方都市では県庁所在地でも商業施設はそう多くはない状況からすると大きな格差を感じます。今後は都内の施設同士での競争を予想。「箱」だけでなくソフト面での工夫により施設としての魅力を維持することが必要に。(Fj/M)
- 同じ外濠と公共インフラからなる風景として、首都高新宿線との違いを感じざるを得ません。総武線電車と外濠の景観は原風景の一つなのに、首都高新宿線からは醜さしか感じません。自然的景観とマッチしている道路構造物は結構あると思いますが、歴史的景観との相性はおおむね良くないと思う。その理由についての上手い説明をつけたい。徐々に説明を聞きながらの街歩きはとても楽しかったです。ありがとうございました。(M/Y)
- 江戸の成り立ちと鉄道整備の歴史を共に体感できるととても面白い企画でした。やはり皆さんと一緒に歩けるのは良いですね。企画とご案内ありがとうございました。(Hs/M)
- 企画者の皆様のいろいろなお話があったからこそ、面白さが倍増しました。今まで飯田橋と言うと、全く平凡な面白くないオフィス街、というイメージしか持っていませんでしたが、今回は目からうろこ。ありがとうございました。(M/M)
- 久々のリアル TEKU-TEKU。やはりみんなと一緒にのまち歩きは楽しかったです。午前中の法政大学セミナーの陣内先生の話も興味深く、その後の外濠企画のまち歩き、そして夜のオンライン TEKU-TEKU と、とても充実した一日でした。(K/T)
- やはり街歩きはリアルに限る！ 空気の匂い、寒さ、足の疲れ、全てが心地よい。(S/J)
- 外濠を見ながら土手の並木道歩きは素晴らしい！！(I/Y)
- ご準備から当日の運営、事後評価の手配等、いつも有難うございます。(T/K)
- 久しぶりに皆さんとお会いできて嬉しかったです。ありがとうございました！(U/T)

コーディネーターより ■今回は飯田橋と四谷の大規模再開発をメインに計画したのですが、現地調査してみると圧倒的に外濠の歴史・自然景観が優れていたため、外濠に沿って歩く企画としました。久しぶりにリアルの集合型まち歩きも復活試行できました。法政大学については当日イベントへの参加者が少なく、キャンパス内部の評価が十分でないのが残念でした。今後も、オンラインとリアルの組み合わせを模索していきます。(O/R)